
赤 潮 注 意 報

鹿児島県水産技術開発センター
平成 17 年 6 月 18 日

八 代 海 No.1

[1] 6月18日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

6/17(午後)東町漁協によって東町三船浦において着色域が確認されました。6/18日に水技センター及び東町漁協において、詳細な調査を行いましたところ、東町三船浦においてヘテロシグマ アカシオによる局所的ではありますが、薄い着色域が確認されました。最高細胞数は5,300cells/ml(5m層)。

[2] 今後の赤潮発生の予想

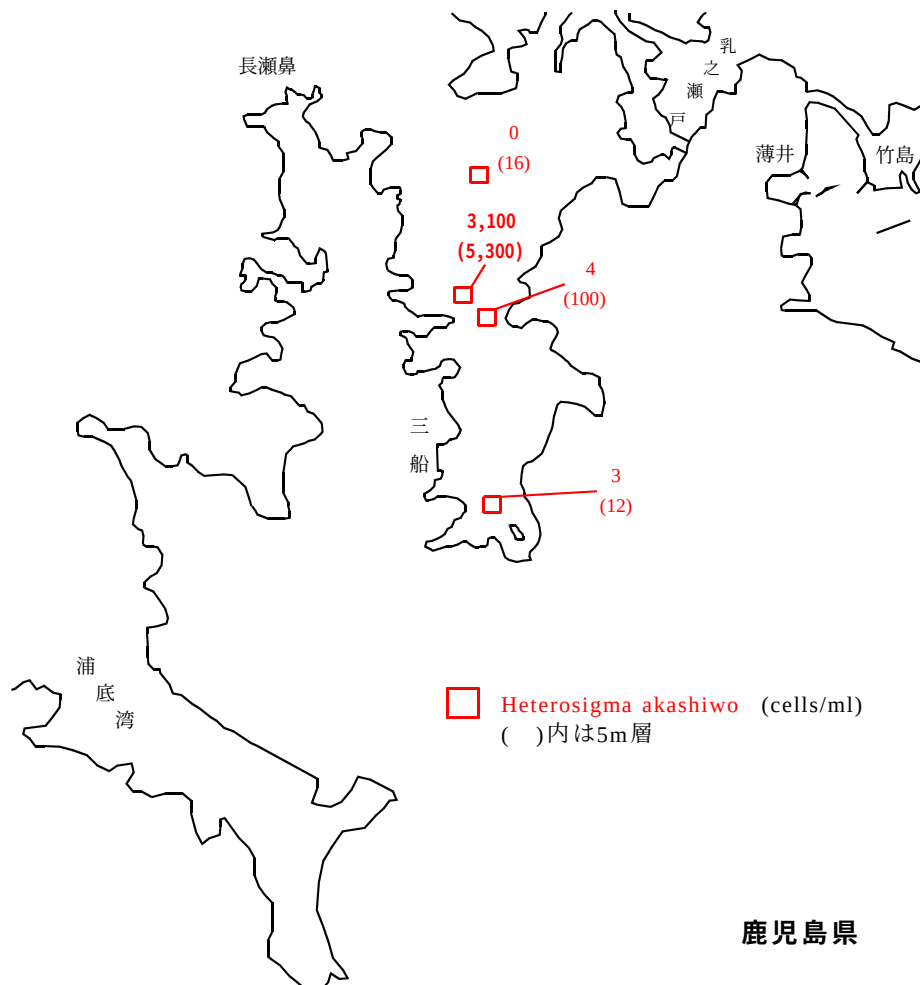
今回確認されたヘテロシグマ アカシオ(以下ヘテロシグマ)は、局所的で薄い着色域を形成していて、細胞活性が低い状態でしたが、他の競合プランクトンが非常に少ない状態ですので、今後は風や潮流等による急激な増加と養殖魚の状態等に対する十分な注意が必要と思われます。

本種はラフィド藻に属する長さ15μm前後の種で、適水温(15~25℃)、適塩分ともに広く、鹿児島湾では過去に3~4月に赤潮を形成(平成13年には鹿児島湾で大規模赤潮を形成[漁業被害有])。八代海では、平成12年5月に東町浦底湾において赤潮を形成したことがあります(漁業被害有)。

また、本種の魚毒性はカンパチで3万cells/ml前後、ブリで10万cells/ml前後で、鉛直移動を行い午前9~12時前後に最も表層に集積し、15時以降は水深15m付近まで分布域を広げる習性を持っています。

2005.6.18 調査

【鹿児島県水産技術開発センター、東町漁協 調査】



ヘテロシグマ アカシオ細胞数 (cells/ml)
()内は水深 5m

※鹿児島県水産技術開発センターの HP 上でも赤潮情報の随時更新を行っています
<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>